

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090700842		
法人名	株式会社 河村福祉サービス		
事業所名	グループホーム ひろき苑		
所在地	北九州市八幡西区本城四丁目7番46号 (電話) 093-603-8770		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 30 日	評価結果確定日	令和 4 年 9 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・共有スペースが広々として開放感がある。平屋造りで、中庭まで行き来ができる。
・各利用者に担当職員を決めて、より深く状態を把握し、柔軟に対応できるように努めている。
・協力医療機関や訪問看護との連携をこまめにとっている。施設職員が通院介助に協力することで、より迅速に状態変化に対応している。
・コロナ感染予防のため家族の面会制限があるが、安心できるように家族への連絡や相談をこまめに行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 4 年 7 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から入った静かな住宅街の中に立地している。建物内は多くの木が使用されており、温かみのある造りとなっている。また、居室や共用空間は広々としており、開放感がある。中庭やウッドデッキもあり、くつろぎのスペースとなっている。
職員は、利用者が清潔で気持ちよく元気に過ごせるように、ケアに努めている。往診や訪問看護等の医療連携も構築され、利用者、家族共に最後まで安心して過ごせるよう看取りケアにも取り組まれている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町に住み、我が家との距離感を意識しながら生活しておられる利用者も多い。理念はホーム内に掲示している。	事業所理念及び基本方針が掲げられ、職員は利用者の状態に応じて安心安全な介護サービスの提供を心がけている。また、利用者、家族とコミュニケーションを図り、地域とのつながりを保ちながら暮らせるように配慮している。理念や方針について職員の目の付くところに掲示するとともに、会議等にて浸透するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため地域行事などの参加を控えており、交流が難しい。自治区会長等との情報共有を定期的に行っている。	事業所は町内会に加入し、町内会長や市民センター職員と情報交換を行っている。コロナ禍前は、地域の祭りに参加したり、ボランティアの方々の出入りも多くあった。現在は交流は中止となっているが、コロナ終息後は再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域事業所等に訪問し、活動内容やホームの様子を伝えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため、地域運営推進会議を実施できていない。	コロナ禍で運営推進会議は中止の状況が続いている。利用者、家族、地域包括支援センター職員、町内会、民生委員、市民センター職員に対しては2か月に1回、ホームの様子が分かるように事業所便りを作成し、配布している。	ホームの様子は事業所便りの配布で理解されているが、意見交換の場が持てていない。コロナ禍においても、書面での意見交換や少人数での開催、リモート活用等、意見交換の場を検討し、サービスの向上に向けての取組を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市に対して空室状況を報告している。ケアサービスや運営上の事で不明な点があれば、市担当者と連絡をとって確認をしている。	日頃は主に管理者、介護支援専門員が必要に応じて行政担当者と連携をとっている。また、定期的に事業所便りを持参し、ホームの様子を理解していただくように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止対策実施のため、3か月毎の会議及び年2回研修を実施している。玄関施錠に関しては安全のため基本行っている。	現在、安全面上、車椅子抑制ベルト使用の該当者があり、必要な手続きを行い、家族の同意を得て実施している。また、毎月「身体的拘束等適正化のための対策検討会」にて話し合いの場を設け、拘束時間の短縮等、廃止に向けて取り組むとともに、身体拘束についての基本的考え方や適切な言葉使い等、研修の機会を設けている。	身体拘束による弊害について理解を深め、環境や支援方法の見直しを常に行い、早期の改善を期待する。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修で学習・検討し、虐待防止の知識や目的を理解できるように取り組んでいる。その際虐待までにならなくても不適切な声かけ、行為が防げるように検討を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学習・検討をしている。成年後見制度が必要と思われる利用者に対しては、ご家族や関係機関に連絡相談をしている。	利用者、家族に対しては、契約時に権利擁護に関する制度を説明している。パンフレット等は玄関に設置している。職員は年1回、内部研修を実施し、制度の理解に努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に面接の場を持ち、本人及びご家族の意見などを聞きながら説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設けている。またご家族の面会時に必ず声かけをし、苦情や要望を聞くようにしている。公共関係機関の連絡先は重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。	利用者については、日頃の関わりの中から要望や思いを聞くように努めている。家族については、来所時や定期的な電話連絡にて聞くようにしている。コロナ禍で面会制限もあったが、要望に応じて臨機応変に対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程ユニット会議を行い、意見や提案について検討を図っている。また月1回事業所全体の管理者会議を実施している。	令和2年に運営会社が変わり、従業員は事業継続とともに引き継がれている。新たな管理者が自ら日常的に介護現場に入ること、職員の様々な意見に耳を傾けるよう努めている。日頃の行事や業務改善等、職員のアイデアが活かされている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては性別、年齢等を問わない。認知症介護について意欲のある方を採用としている。	職員の採用については、性別や年齢等を理由に採用対象から外していない。内部の研修や教育は全職員を対象としている。定年後も昇給があり、再雇用を希望する職員も生き生きと働けるように配慮されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回以上、人権研修を社内で開催している。	年1回、事業所は内部研修を開催している。職員は人権啓発DVD鑑賞等を通じて理解を深めている。また、事業所内で行われる様々な研修の機会を通じて、管理者が人権について話をしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を定期的に行い、職員の知識の向上と確認の機会を持っている。必要時は外部研修の機会を設けている。個々の希望する研修は勤務調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会は少ない。管理者が地域の懇親会に参加することがある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人に会って話をしている。認知症のため本人が困っていることをいうことができない場合も多いので、様子を見たり情報を収集することで理解するようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を2~3回行い、これまでの状況や現在の思いを伺っている。具体的に困っていること、要望等を聴き、入居後のケアに活かすようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前に利用者の状態・家族の意見を伺っている。また他事業所のケアマネジャーやサービス担当者と相談し、その方にとってグループホームでの介護が最も適しているかを見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自主性を尊重しながら、共有の時間をつくっている。自然体の会話など関わりをもつことで信頼関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時にご家族へ必ず声かけをして話すようにしている。コロナ感染予防のため、来苑時は離れた距離で様子を見て頂いたり、ガラス越し等で対面して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等の希望によって、外出の支援をしている。	入居時に馴染みの関係について把握し、入居後も知人との関係を継続できるよう、電話や手紙等の取り次ぎを支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者によって理解度が異なるのでスタッフが個々にあった関わりをし、孤立しないように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても何かあればお互い連絡をするように伝えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活歴や趣味、暮らしの様子を観察しながら意向に添えるように努めている。本人からの意思が少ない場合が多いのでご家族からの意見も参考にしている。	職員は、話やすい雰囲気づくりに努めており、利用者との会話の中から意向を把握して支援している。意思を伝えることが難しい利用者については、ジェスチャーや表情から思いを汲み取ったり、家族から生活歴を聞き、職員間で本人本位に検討しながら支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活スタイルを少しずつ維持できるように面接・情報収集をし、スタッフ間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画検討会議や状態伝達の際に、個人の状況をスタッフ間で情報共有し現状を把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会やモニタリングで本人・家族の意見を伺い、会議で検討の上、介護計画に反映するようにしている。必要に応じて、関係者で話し合い、意見の統一ができるようにしている。	6ヶ月に1回、日々の会話等から利用者の思いや要望を把握し、担当職員や医師や看護師などの意見を考慮しながら、利用者や家族の意向に添ったプランを作成している。意欲低下がみられた方に車椅子の自走をプランに入れ実践したところ、意欲が出てきた事例がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の経過記録は介護目標にそって書くようにしている。記録を参考にして、職員間の意見を聴取して計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住む家族などには代行して利用者の生活用品の購入や衣替え等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	拘束廃止対策実施のため、3か月毎の会議及び年2回研修を実施している。玄関施設に関しては安全のため基本行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療と訪問看護師・介護職員が協力し、利用者の小さな変化にも対応できるようにしている。希望の病院等があれば相談に応じている。	今までのかかりつけ医を受診することが可能である。2週間に1回、協力病院による往診がある。また、訪問看護が週2回来られ、夜間の対応もしている。また、基本的に通院介助は職員が行っており、受診前後には家族に状況説明や結果報告を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を実施し、職場内看護職及び介護職員と情報共有している。夜間を含めて利用者の体調変化時は看護師へ連絡をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合、状況や情報を医療機関より聞き、把握に努め、早期退院に向けて病院や家族と話すようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護について、契約時に利用者や家族にホームでする支援と、病院でしか出来ない支援について説明し、承諾を得ている。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し、納得した上で方針を定めている。	契約時に重度化や終末期のあり方について説明している。ホーム内でできること、病院でなければならないことを説明し、承諾を得ている。また、利用者の状態変化に応じて、繰り返し話し合いをして合意を図っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	令和2年度から施設内にAEDを設置している。設置時に介護職員全体に講習、訓練を行った。利用者ケガ等の応急処置や連絡方法などは日頃から看護師が指導・伝達している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。コロナ感染予防のため、訓練時の家族等の参加は出来なかった。	年2回、避難訓練を実施しており、消防署へは「自衛消防訓練計画通知」「自衛消防訓練結果通知」を提出している。緊急時の備品は事業所内に2～3日分の想定で水・食料（冷凍）やおむつが準備されている。避難訓練を実施する際、地域住民に特に呼びかけを行っていない。	避難訓練をする際は、民生委員や行政等を通じて、地域住民へ参加協力の声掛けをすることを期待したい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活環境や性格等を把握し、その人に合わせた言葉かけや対応を行っている。	プライバシーの確保や言葉遣い等について内部研修が行われ、職員間で話し合い、プライバシーに配慮した対応に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動や休息の意思確認や飲み物提供時に希望を聞いたりしている。意思を表せない方には、様子を見て察知するように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者の生活ペースに合わせて対応をしている。意思を尊重できるように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の際に、好みの髪型を聞いたり、化粧をする方には継続できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を安全に楽しんで頂くために、食事前に口腔体操を実施している。食事の片づけ等ができる方、意思のある方には手伝って頂いている。	食事は業者に委託契約している。職員と利用者は、食事の準備や片づけを一緒に行っている。おやつは手作りで、利用者が希望するメニューを提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を把握できるようにしている。不足している方には、好みの食品等を別に提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人一人に対して、声かけ又は介助にて口腔ケアを実施している。義歯は週1回以上の消毒を行っている。週1回、希望者及び治療が必要な利用者は歯科往診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ類、布パンツ等の選択、トイレの介助方法は利用者の意思や能力に応じて検討、実施している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導やおむつ交換を行っている。すぐにかけてもらえるようにセンサーを設置している。入院中に紙おむつになった利用者が、退院後に排泄支援を行うことによって、布パンツと尿取りパッドの組合せに改善した事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分にすることと、朝食時に果物やヨーグルトを取り入れている。できる方は、日中に体操や歩行練習を行うようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回、午前午後と入浴時間を設定している。その日に入れなかった方や体が汚れた時などは別の日にも介助を行う場合あり。	入浴は基本的に週2回行っているが、希望に応じていつでも入浴することが可能である。入浴を嫌がる利用者には、声掛けする職員を替えたり、時間をずらしたりし柔軟に対応し、無理強いしないようにしている。状況によっては清拭を行うこともあり、一人ひとりの特性に応じた対応を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の生活リズムに合った支援をしている。習慣や本人意思で休息したい利用者は、居室で過ごして頂いている。夜間は利用者それぞれの就寝時間で支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・用法書をファイルにして、介護職員が確認できるようにしている。服薬内容が追加・変更した時は看護師が連絡ノートに記して把握できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、洗濯手伝いが好きな方など、好みに合わせて活動支援している。希望は無くても出来る活動には声かけて参加できるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため基本的に外出支援が出来ていない。希望がある時には家族とも協力して実現できるようにしている。	コロナ禍のため、外出支援は中止しているが、ウッドデッキで日光浴をしたり、テーブルを出して食事をしたりして、利用者の希望を把握して、戸外での支援について工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族がお金を持つことを希望された場合は所持して頂けるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時に取次いで話して頂くこともある。家族からの手紙を一緒に読んで伝えるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂の天井が吹き抜けで明るく、広々とした空間になっている。中庭にテラスが設置しているので、外に出て日光浴ができる。	共用スペースは吹き抜けの天井で、大きな窓からは自然光が差し込み、開放感のある空間となっている。壁面には、利用者の習字が飾られ、ソファが置かれ、利用者がくつろいでテレビを見る姿がみられる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	老化やテラスには椅子やベンチが設置され、誰でも座れるようにしている。リビングのソファは複数設置して、自由に座れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、なじみの家具などを持ち込まれている。	居室には、馴染みのある家具や家族の写真、利用者の思い出のあるものが持ち込まれ、一人ひとり個性のある室内で、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老化や居室トイレ内に手すりを設置し、安全に移動ができるようにしている。夜間は利用者が一人で起きた時に手元・足元が見える明るさにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町に住み、我が家との距離感を意識しながら生活しておられる利用者も多い。理念はホーム内に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため地域行事などの参加を控えており、交流が難しい。自治区会長等との情報共有を定期的に行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域事業所等に訪問し、活動内容やホームの様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため、地域運営推進会議を実施できていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市に対して空室状況を報告している。ケアサービスや運営上の事で不明な点があれば、市担当者と連絡をとって確認をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止対策実施のため、3か月毎の会議及び年2回研修を実施している。玄関施錠に関しては安全のため基本行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で学習・検討し、虐待防止の知識や目的を理解できるように取り組んでいる。その際虐待までにならなくても不適切な声かけ、行為が防げるように検討を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学習・検討をしている。成年後見制度が必要と思われる利用者に対しては、ご家族や関係機関に連絡相談をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に面接の場を持ち、本人及びご家族の意見などを聞きながら説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設けている。またご家族の面会時に必ず声かけをし、苦情や要望を聞くようにしている。公共関係機関の連絡先は重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程ユニット会議を行い、意見や提案について検討を図っている。また月1回事業所全体の管理者会議を実施している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては性別、年齢等を問わない。認知症介護について意欲のある方を採用としている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回以上、人権研修を社内で行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を定期的に行い、職員の知識の向上と確認の機会を持っている。必要時は外部研修の機会を設けている。個々の希望する研修は勤務調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会は少ない。管理者が地域の懇親会に参加することがある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人に会って話をしている。認知症のため本人が困っていることをいえない場合も多いので、様子を見たり情報を収集することで理解するようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を2~3回行い、これまでの状況や現在の思いを伺っている。具体的に困っていること、要望等を聴き、入居後のケアに活かすようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前に利用者の状態・家族の意見を伺っている。また他事業所のケアマネジャーやサービス担当者と相談し、その方にとってグループホームでの介護が最も適しているかを見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自主性を尊重しながら、共有の時間をつくっている。自然体の会話など関わりをもつことで信頼関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時にご家族へ必ず声かけをして話すようにしている。コロナ感染予防のため、来苑時は離れた距離で様子を見て頂いたり、ガラス越し等で対面して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等の希望によって、外出の支援をしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者によって理解度が異なるのでスタッフが個々にあった関わりをし、孤立しないように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても何かあればお互い連絡をするように伝えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活歴や趣味、暮らしの様子を観察しながら意向に添えるように努めている。本人からの意思が少ない場合が多いのでご家族からの意見も参考にしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活スタイルを少しずつ維持できるように面接・情報収集をし、スタッフ間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画検討会議や状態伝達の際に、個人の状況をスタッフ間で情報共有し現状を把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会やモニタリングで本人・家族の意見を伺い、会議で検討の上、介護計画に反映するようにしている。必要に応じて、関係者で話し合い、意見の統一ができるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の経過記録は介護目標にそって書くようにしている。記録を参考にして、職員間の意見を聴取して計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住む家族などには代行して利用者の生活用品の購入や衣替え等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	拘束廃止対策実施のため、3か月毎の会議及び年2回研修を実施している。玄関施設に関しては安全のため基本行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療と訪問看護師・介護職員が協力し、利用者の小さな変化にも対応できるようにしている。希望の病院等があれば相談に応じている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を実施し、職場内看護職及び介護職員と情報共有している。夜間を含めて利用者の体調変化時は看護師へ連絡をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合、状況や情報を医療機関より聞き、把握に努め、早期退院に向けて病院や家族と話すようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の介護について、契約時に利用者や家族にホームでできる支援と、病院でしか出来ない支援について説明し、承諾を得ている。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し、納得した上で方針を定めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	令和2年度から施設内にAEDを設置している。設置時に介護職員全体に講習、訓練を行った。利用者ケガ等の応急処置や連絡方法などは日頃から看護師が指導・伝達している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。コロナ感染予防のため、訓練時の家族等の参加は出来なかった。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活環境や性格等を把握し、その人に合わせた言葉かけや対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動や休息の意思確認や飲み物提供時に希望を聞いたりしている。意思を表せない方には、様子を見て察知するように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者の生活ペースに合わせて対応をしている。意思を尊重できるように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の際に、好みの髪型を聞いたり、化粧をする方には継続できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を安全に楽しんで頂くために、食事前に口腔体操を実施している。食事の片づけ等ができる方、意思のある方には手伝って頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を把握できるようにしている。不足している方には、好みの食品等を別に提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人一人に対して、声かけ又は介助にて口腔ケアを実施している。義歯は週1回以上の消毒を行っている。週1回、希望者及び治療が必要な利用者は歯科往診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ類、布パンツ等の選択、トイレの介助方法は利用者の意思や能力に応じて検討、実施している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分にすることと、朝食時に果物やヨーグルトを取り入れている。できる方は、日中に体操や歩行練習を行うようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回、午前午後と入浴時間を設定している。その日に入れなかった方や体が汚れた時などは別の日にも介助を行う場合あり。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の生活リズムに合った支援をしている。習慣や本人意思で休息したい利用者は、居室で過ごして頂いている。夜間は利用者それぞれの就寝時間で支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・用法書をファイルにして、介護職員が確認できるようにしている。服薬内容が追加・変更した時は看護師が連絡ノートに記して把握できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、洗濯手伝いが好きな方など、好みに合わせて活動支援している。希望は無くても出来る活動には声かけて参加できるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため基本的に外出支援が出来ていない。希望がある時には家族とも協力して実現できるようにしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族がお金を持つことを希望された場合は所持して頂けるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者があるので管理の補助を行っている。家族からの手紙と一緒に読んで伝えるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂の天井が吹き抜けで明るく、広々とした空間になっている。中庭にテラスが設置しているので、外に出て日光浴ができる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	老化やテラスには椅子やベンチが設置され、誰でも座れるようにしている。リビングのソファは複数設置して、自由に座れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、なじみの家具などを持ち込まれている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老化や居室トイレ内に手すりを設置し、安全に移動ができるようにしている。夜間は利用者が一人で起きた時に手元・足元が見える明るさにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		